

交流人口のさらなる
拡大につなげる

平成28年3月26日の北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業と、同7月～9月に開催される「青森県・函館グステイネーションキャンペーン」は、青森県に新たな観光客を呼び込む大きなチャンスです。このため、**東青地域**では、津軽海峽圏を舞台にした民間団体によるさまざまなイベントを支援するなど、青森県と北海道を結ぶ幅広い視点で観光客の増加に取り組みます。さらに、旅行・雑誌業者などへ売り込みを図るなど、東青地域の魅力を全国へ積極的に発信していきます。

また、**西北地域**においては、五所川原市、中泊町と連携し、道南地域や将来的に新幹線が延伸する札幌などからの観光客の誘致に向け、地域の人財を活用したSNSでの情報発信を行います。さらに函館や札幌などで開催されるイベントでのPR、旅行商品造成を促すためのモニターツアーの実施や旅行者向けに観光情報の提供などに取り組んでいきます。

魅力を伝え価値を高める
「津軽の手仕事」

青森県には世界に誇る素晴らしい伝統工芸品があります。しかし、ライフスタイルの変化や安価な輸入品が増えたことなどにより、生産額が減少しています。その一方で津軽塗の重要無形文化財指定の動きや4年後に迫った東京

オリンピックなどは、まさに、日本の手仕事を世界にPRする絶好の機会です。このため、**中南地域**では、県産業技術センター弘前地域研究所、弘前市、職人の皆さんと連携して、「津軽の手仕事（津軽塗）」の戦略的なプロモーションを展開するなど、伝統工芸品産業の活性化へ向けた取組に挑んでいきます。

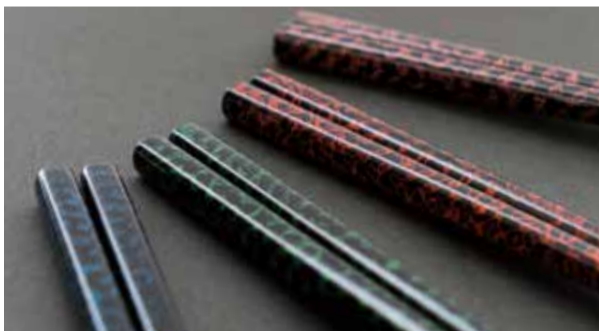
地域の魅力で挑む 人口減少克服

～6地域県民局による未来を変える挑戦～

県内の6地域県民局（東青、中南、三八、西北、上北、下北）でも、地域の強みをとことん伸ばし、課題をチャンスと捉え、魅力ある地域づくりや仕事づくりなど、人口減少克服に向けた取組にチャレンジしていきます。



提供：JR北海道



青森の豊かな「食」は、本県の最大の強み。そこで、県と生産者などが連携し地域のさまざまな「食」に関する取組を進めることで、所得向上、後継者の確保、雇用の創出につなげていきます。

ジュノハートを核に

「さくらんぼの里」を活性化

三八地域のさくらんぼの栽培面積は、県内の約8割を占め、観光資源にもなっています。しかし、園地の老木化が進んでいることから、近年、栽培面積が減少しています。そうした中、平成27年秋には、県

が独自に育成したさくらんぼの新品種「ジュノハート」の栽培がスタート。甘みが強く大玉で、可愛らしいハート型が特徴で、贈答用や観光果樹園での利用が期待されることから、ジュノハートの苗木を計画的に増やし、栽培技術を学ぶ研修会を開催するなど、ジュノハートの産地化に力を注ぎます。市場にお目見えするのは、平成32年以降の予定です。

地元で愛される

「まっしぐら」応援

県内で2番目に水稲作付面積が多い**上北地域**では、「まっしぐら」が、その95パーセントを占めていることもあって、県、地元生産者、米販売店、飲食店などがスクラムを組み、「地元で愛されるまっしぐら」を目指した取組を進めます。生産者などで結成する「チームまっしぐら」によるPR

活動や、応援協力店によるスタンプラリーの実施など、地域全体で「地産地食」を進め、地元産「まっしぐら」のさらなる消費拡大を目指します。

魅力ある持続可能な

漁業づくり

地域団体商標に登録された「大間まぐろ」、「風間浦鰺鯨あんこう」など、全国的に高い知名度を持つ魚介類が水揚げされる**下北地域**。しかし、近年、特産品のキアンコウやミズダコの漁獲量が減少傾向にあります。そこで、人気のキアンコウやミズダコ、マツモのほか、価格が高いマボヤを対象に、資源管理対策や養殖に向けた取組を進めます。また、漁業協同組合と連携して、首都圏や関西圏での販売促進に取り組むとともに、高い鮮度を保つたまま輸送する品質保持技術の開発などを進め、次世代につながる持続可能な漁業づくりに取り組んでいきます。

県と市町村の連携・協力で
目指す人口減少克服！

各地域県民局のほか、県内の各市町村でもまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少克服に本格的に取り組むこととしていきます。県では、市町村の総合戦略に基づく地域特性を生かした取組への支援を強化するとともに、移住促進など市町村と連携した取組を進めていきます。